

平成 28 年 度

幼稚園教員資格認定試験

教職に関する科目(Ⅱ)

注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 28 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。
ただし、受験科目のマークについては、幼稚園の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があつてから 60 分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があつたら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ⊙ ⊗ ⊕ ⊖

問 1 文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成 20 年 10 月)「第 1 章 総説 第 2 節 教育課程の編成」に示された記述として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 幼児の発達の過程や実情を的確に把握し、教育の内容や方法を幼児の発達の実情に即したものにしなければ、教育の効果を生み出すことができない。
- イ 教育課程はそれぞれの幼稚園において、各担任教師の責任において編成するものである。
- ウ 全教職員が法令や幼稚園教育要領に示されていることについての理解を十分にもつと同時に、実践を通してそれぞれの幼稚園の実態に即した教育課程となるようにする。
- エ 幼児の生活や発達は、地域環境や幼稚園自体の人的・物的条件の影響を受けるものであるもので、幼稚園や地域の実態を把握して、特色を生かし、創意のある教育課程を編成しなければならない。

問 2 次の文は、文部科学省『幼稚園教育指導資料第 1 集 指導計画の作成と保育の展開』(平成 25 年 7 月改訂)「第 1 章 指導計画作成に当たっての基本的な考え方」に参考として示された教育課程についての記述である。文中の ～ に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼児期の終わりには学びの芽生えだけでなく自覚的な学びの芽も育ってきており、教科指導こそ行われぬものの、気のあった仲間同士の活動だけでなく学級における の目標を意識したり、自分の役割を理解したりして、集団の一員としての自覚を育てる活動を重視したり、今までの遊びを通して学んできた の芽生えを総合化したりし、小学校に 学びを高めていくための教育課程の編成・実施が必要となってきます。

- | | ① | ② | ③ |
|--------|-------|------|---|
| ア 共通 | 生きる力 | 準じる | |
| イ 幼児個別 | 生きる力 | つながる | |
| ウ 幼児個別 | 知・徳・体 | 準じる | |
| エ 共通 | 知・徳・体 | つながる | |

問 3 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成 26 年内閣府・文部科学省・厚生労働省告示第 1 号)「第 1 章 総則」の「第 3 幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項」に示された記述として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 園児一人一人の置かれている状態や発達の過程などを的確に把握し、園児の欲求を適切に満たしながら、応答的な触れ合いや言葉掛けを行うこと。
- イ 園児一人一人の気持ちを受容し、共感しながら、園児との継続的な信頼関係を築いていくこと。
- ウ 園児の生活のリズム、発達の過程、在園時間などを考慮しながら、活動内容を共通にし、適切な食事や休息がとれるようにすること。
- エ 保育教諭等との信頼関係を基盤に、園児一人一人が主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自信を持つことができるよう成長の過程を見守り、適切に働き掛けること。

問 4 次の文は、「幼稚園教育要領」(平成 20 年文部科学省告示第 26 号)「第 3 章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項 第 1 指導計画の作成に当たったの留意事項 1 一般的な留意事項」の一文である。文中の ~ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

具体的なねらい及び内容は、幼稚園生活における幼児の を見通し、幼児の生活の , などを考慮して、幼児の興味や関心、発達の実情などに応じて設定すること。

- | | ① | ② | ③ |
|---|-------|-----|---------|
| ア | 発達の過程 | 個別性 | 家庭生活の状況 |
| イ | 発達の過程 | 連続性 | 季節の変化 |
| ウ | 遊びの発展 | 連続性 | 家庭生活の状況 |
| エ | 遊びの発展 | 個別性 | 季節の変化 |

問 5 次の文中の ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

和田実(1876～1954)は、幼児教育の基本原理として ① を提唱し、幼児教育を科学的に教育学の体系に位置付けた。日本で初めて「幼児教育」という言葉を使った人とも言われる。また、幼児の遊戯を中心とした保育を重視し、教育は教授ではなく自主的活動を通して導く ② であるべきとした。1908年には中村五六と共に ③ を著し、1915年には自ら幼稚園を創立しその実践に当たった。

| | ① | ② | ③ |
|---|--------|------|---------|
| ア | 自然主義教育 | 自然保育 | 『幼稚園雑草』 |
| イ | 科学主義教育 | 感化誘導 | 『幼稚園雑草』 |
| ウ | 科学主義教育 | 自然保育 | 『幼児教育法』 |
| エ | 自然主義教育 | 感化誘導 | 『幼児教育法』 |

問 6 次の文は、「幼稚園教育要領」(平成 20 年文部科学省告示第 26 号)「第 2 章 ねらい及び内容」の領域「表現」における「内容の取扱い」に示された記述である。文中の ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

① や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する ② を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する ③ を大切にして自己表現を楽しめるように工夫すること。

| | ① | ② | ③ |
|---|-------|----|-------|
| ア | 生活経験 | 意欲 | 過程 |
| イ | 興味・関心 | 意欲 | 幼児の思い |
| ウ | 生活経験 | 技術 | 幼児の思い |
| エ | 興味・関心 | 技術 | 過程 |

問 7 「幼稚園教育要領」(平成 20 年文部科学省告示第 26 号)「第 2 章 ねらい及び内容」の領域「人間関係」における「内容」として示されていないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。
- イ 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- ウ 相手のことを思いやり、進んで親切にする。
- エ よいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する。

問 8 幼児の描画表現を表す用語とその説明の組合せとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 頭足人 —— 太陽や雲に顔を描くなど、人間以外のものを擬人化して表現すること。
- イ スクリブル —— 錯画、なぐりがきとも言い、クレヨンや鉛筆などで点を打ったり、線を描いたりする表現のこと。
- ウ レントゲン画 —— 動物を人間のように描く表現のこと。
- エ 基底線 —— 画面いっぱい何本も直線を描く表現のこと。

問 9 ビューラー(Bühler, K.)は、遊びを心理的な機能の面から分類している。ビューラーが分類した遊びの種類とその説明の組合せとして適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 受容遊び —— 絵本を見る、音楽を聴くなどの受容的な遊び
- イ 虚構遊び —— 現実を離れた想像による遊び
- ウ 構成遊び —— 複数の子供がルールを守って協力しながら取り組む遊び
- エ 機能遊び —— 感覚や運動の機能それ自体を喜ぶ遊び

問10 文部省『幼稚園教育指導資料第2集 家庭との連携を図るために』(平成4年7月)において、子育ての悩みを相談する場としての幼稚園について示された記述として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 相談の秘密保持のため、子育ての悩みや不安について保護者同士の情報交換はできるだけ控えるよう依頼する。

イ 専門的な力量を求められる相談の場合には、地域の他の専門機関を紹介することを検討しておく。

ウ 幼稚園の教師であっても、子育てについての全てを理解しているわけではないことを自覚し、様々な機会を通して地域の人々と一緒に学ぶ姿勢をもつ。

エ 幼稚園は保護者が子供についての日常的な相談や悩みを持ち寄り、気軽に相談する場として実質的な機能を果たす。

問11 ピアジェ (Piaget, J.)による乳幼児期の発達の特徴を説明した用語として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 前操作期

イ 心理的離乳

ウ 自己中心性

エ 物の永続性

問12 A児は、B児とC児の遊びの仲間に入れてもらえず泣いて教師に訴えかけてきたが、ひとしきり泣いたあとで、気持ちを立て直し別の遊びに入っていた。このように欲求が満たされない状況を不適切な行動を取らずに乗り越えることのできる能力を示す概念として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア アタッチメント

イ ラポール

ウ ストレッサー

エ フラストレーション・トレランス

問13 次の文は、「幼稚園教育要領」(平成20年文部科学省告示第26号)「第2章 ねらい及び内容」の領域「人間関係」における「内容の取扱い」に示された記述である。文中の ① ~ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼児の ① な活動は、他の幼児とのかかわりの中で深まり、豊かになるものであり、幼児は其中で互いに必要な存在であることを認識するようになることを踏まえ、一人一人を生かした集団を形成しながら人とかかわる力を育てていくようにすること。特に、集団の生活の中で、幼児が ② し、教師や他の幼児に ③ 体験をし、自信をもって行動できるようにすること。

| | ① | ② | ③ |
|---|-----|-------|-------|
| ア | 協調的 | 試行錯誤 | 認められる |
| イ | 主体的 | 試行錯誤 | 励まされる |
| ウ | 主体的 | 自己を発揮 | 認められる |
| エ | 協調的 | 自己を発揮 | 励まされる |

問14 音楽のジャンルに関する説明として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア ポルカとは、行進曲のことであり、集団を行進させるための実用音楽として作られたものである。

イ わらべうたとは、子供たちの遊びや生活の中から自然発生的に生まれ、歌い継がれてきた歌のことである。

ウ オペレッタとは、幼児教育においては、幼児が演じる歌やダンスを交えた劇を指し、ミュージカルとほぼ同義語として用いられている。

エ リトミックとは、リズムが人間の身体と音楽に共通の要素であることに着目して、リズム教育を体系化した音楽教育の方法である。

問15 文部科学省『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』(平成22年7月改訂)において、家庭から幼児についての情報を得るに当たっての配慮事項について示された記述として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 登降園などの何気ない機会をとらえて、その日の保育の中で気付いた幼児の育つ姿を具体的に伝え、親も我が子の成長を喜び合い考え合う者同士として、家庭での様子をありのままに伝えてくれるようになる。
- イ 家庭での様々な生活の姿は、幼児の幼稚園での生活に反映され、幼児を取り巻く家庭の人々の感情や生活態度が幼児の姿に微妙な影響をもたらすことがあるため、いろいろな機会に幼児の家庭での生活の様子を把握して保育に生かしていく必要がある。
- ウ 親が幼稚園と一緒にあって、幼児の教育について考えていこうという気持ちをもつためには、教師は打ち解けた態度で接し、安心して我が子と幼稚園の話ができるような情報を伝えることが必要である。
- エ 家庭での生活の様子を知ることは、その幼児のよりよい指導を考えるために全て役立つものである、登降園も含めた様々な機会を活用し、日常のささいな出来事も含めて家庭からの情報を可能な限り聞き出すようにする。